

市制施行15周年を迎えて

～令和新時代、「緑の健都」をめざして～

明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、令和2年の輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、昨年中は市政各般に深いご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。



亀山市長 櫻井 義之

私たちは、昨年5月、新しく「令和」の時代を迎えました。この新元号「令和」には「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」との意味が込められたとのことです。悠久の歴史と四季の自然の中で紡がれてきた日々を、希望にあふれる新しい時代へ、次世代へとしっかり繋げたいと願うものであります。また、奇しくも「令和2年」は、本市に縁ある「壬申の乱と鈴鹿関」、「日本武尊と弟橘媛」について記された「日本書紀」の編纂1300年にあたる年であり、今一度故きを温めたいと思います。

その一方、少子高齢社会が進展し、また、社会の成熟化に伴うIoT、AI等によるスマート社会への対応、中長期的な地方創生や財政局面への備えなど、「持続可能な地域社会」への新しき挑戦が求められております。

さて、こうした時代の転換点のなか、本市は「市制施行15周年」の節目を



迎えます。平成17年1月11日の新市施行以来、激動の流れの中にありましたが、多くの皆様の英知と協働により、暮らしやすく成熟したまちへと着実な歩みを刻んでまいりました。昨年末には、待望であった新名神高速道路の県内本線開通に引き続き、亀山西ジャンクションのランプウェイが完成し、更なる交通拠点性の向上につながりました。また、「亀山・関テクノヒルズへの2社の立地決定」をはじめ「亀山市鈴鹿川等源流域の自然環境と歴史的資源を守り継ぐ条例の制定」、「関の山車会館の開館」など、次なる活力へとつながる一年でもありました。

これらを踏まえ、私たちは、本市の中長期戦略となる「亀山市総合計画/グリーンプラン2025」の着実な推進と引き続きの「行財政改革」の実践により、市民サービスの向上と財政健全性の確保、その両立を確実に進めてまいります。

さらに、来る令和2年度は、「健康都市づくりと地域包

括ケアの充実」「企業立地と子育て支援による若者の定住促進」「新図書館を生かした都市拠点のにぎわいの再生」「防災マップの全面改定」「亀山版SDGsの確立」などに重点的に取り組んでまいります。特に本年は、3年毎のアクション・イヤーである「かめやま文化年2020」の開催年であり、多彩な魅力の「文化のチカラ」を生かして、一人ひとりの輝きにつながることを楽しみにしております。

清々しい元旦を迎え、『緑の健都 かめやま』の実現への決意を新たに、希望と信頼の「開かれた市政」を基本理念に、全職員一丸となって明日を切り拓いてまいりますので、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が市民の皆様におかれまして、幸多く明るい年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。